

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 27 日現在

機関番号：82643

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：平成 21 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

課題番号：20249035

研究課題名（和文）“ともに考える医療”のための新たな患者—医療者関係構築を目的とした実証・事業研究

研究課題名（英文）Empirical research and action research for development of patient-professional relationship in new paradigm aiming at “Thinking health together”

研究代表者

尾藤 誠司（BITO SEIJI）

独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 臨床研究センター 臨床疫学研究室・室長

研究者番号：60373437

研究分野：ライフサイエンス

科研費の分科・細目：

キーワード：医療社会学 バイオエシックス 医療コミュニケーション

## 1. 研究計画の概要

＜研究の目的＞ 患者・家族・医療者が、相互理解・相互信頼と歩み寄りを目指す対話の実現を目的として、

・“ともに考える”事を障害するバリアについて明らかにする。

・情報の共有と、価値の共有を主眼においた、具体的方法について明らかにする。

・医療の限界や診療義務の限界を加味した上での医療者の診療義務について再考察する。

・“ともに考える医療”を推進する上での、患者支援、医療者支援および相互コミュニケーション支援方略を立案し、その有効性について検証する。

＜研究成果が目指すゴール＞ “ともに考える医療”を実現する上での、情報共有のあり方、さらに価値共有のあり方とその具体的方略を、実証的な根拠とともに提示する。

＜研究デザイン＞ 調査研究、成果物作成型研究、アクション・リサーチを主な研究形態とする。

## 2. 研究の進捗状況

計画された分担研究事業は、「ともに考える医療」の推進というコンセプトのもとで、定期的に分担研究者間の協議を行いながら順調に進捗している。各分担研究の平成 22 年度成果を以下にまとめた。

＜尾藤分担事業＞

・「インフォームド・コンセントにおける医師の説明の構造に関するランダム割り付け調査」：計画通り調査を終了し、2010 年 5 月にミネアポリスで行われた米国一般内科学会で発表した。また、論文執筆を終了し投稿を終了した。

・「ともに考えるインフォームド・コンセントの手引き」作成プロジェクト：平成 22 年

度より着手し、平成 23 年 10 月をめどに完成、今年度中に試用と妥当性検証までを完了予定。

・「21 世紀 医師宣言プロジェクト」：平成 22 年度より開始し、平成 23 年 9 月をめどに普及活動に移行する予定。活動性高く進捗中。＜浅井分担事業＞

・「一般市民と医療従事者を対象にした、医療現場と社会における主要な生命・医療倫理領域の問題についての総合意識調査」フォーカスグループ調査は論文出版も完了した。質問紙調査も完了し現在論文掲載予定

・「医療現場における適切な意思疎通および意思決定に関するモデル構築を目指した対話」順調に進捗し、すでに一部の成果は論文出版を完了。

・「臨床倫理コンサルテーション事業」および「「ともに考える臨床倫理チェックリスト」による教育介入事業」：全国 8000 人の医療関係者に配布し、教育セッションを行った。累積 57 件の倫理コンサルテーションを全国の医療機関から行った。

＜大生分担事業＞

・「主要疾患の診断・治療プロセスに関するブリーフ・パンフレットの普及と有効性に関する事業研究」：作成マニュアルおよび文書収集を完了。また、ホームページを開設、エンドユーザー向けの準備を完了した。

・「「ともに考える医療」モデルを基礎とした医療連携及びチーム医療推進に関する事業研究」：平成 22 年度より開始、今年度中に完遂。

＜大西分担事業＞

・「医療者に対する相互信頼促進のための患者教育技法教育に関する研究」：同僚間ロールプレイ、および劇場型コミュニケーションの方法論に関する分析を完了した。

<野村分担事業>

・「医療の公共性に関する調査」：すでに調査を完了し、現在発表・出版準備中

・「”医師に対するカテゴリ信頼”に関する調査」：すでに調査を完了し、現在発表・出版準備中

<竹村分担事業>

・「患者の情緒的状況を認知するための医療面接に関する研究」：平成22年度中に調査を完了し、現在発表・出版準備中。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

<理由>研究者間で進捗について定期的な情報交換を行っていること、データセンターや、研究補助者などを共有し、効率的に運用することで、研究の進捗状況を高めている。

4. 今後の研究の推進方策

「ともに考える医療」についてのコンセプトが一貫しており、大まかな研究事業については11月中にすべて完遂のめどが立つため、11月27日にこれまでの研究成果を総括する大規模なシンポジウムの開催を予定している。また、成果物については、誰でもアクセスできるようにホームページ上にポータルサイトを開設し、利用普及に努める予定である。

さらに、今後の研究班の方針として、作成された成果物と医療の質の向上に関する介入評価とともに、患者安全の観点から医療コミュニケーションを考える研究事業への発展を構想している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計43件)

Fukuyama M, Asai A, Itai K, Bito S.

A report on small team clinical ethics consultation programmes in Japan.

J Med Ethics. 2008;34 page. 858-862

査読有

Aizawa, Asai, Hoshiko, Kobayashi, and Bito

A Neo-Socratic Dialogue for Developing a Mutual Understanding of Rights and Responsibilities in the Healthcare System

Contemporary and Applied Philosophy,

2010;2:10001-16 査読有

Atsushi Asai, Yasuhiro Kadooka, Kuniko

Aizawa. Arguments against promoting organ transplants from brain-dead donors, and views on life and death of contemporary Japanese. Bioethics 2011, in

press. 査読有

[学会発表] (計8件)

S Kurosawa, S Bito. Effect of an Explanation Pattern from Physicians on Understanding about Disease, Anxiety, Trust to Physicians and Therapeutic Choices among Japanese people; Randomized Allocation Survey. SGIM 33rd Annual Meeting. Minneapolis, Minnesota Apr 30, 2010

[図書] (計5件)

尾藤誠司 「医師アタマ」との付き合い方 患者と医者とはわかりあえるか 東京：中央公論新社；2010.4 218 ページ

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

尾藤班 ”21世紀 新医師宣言プロジェクト”

<http://www.ishisengen.net>

浅井班”臨床倫理支援・教育プロジェクト”

<http://www.clethics.jp/>

大生班”ともに考える医療 説明文書プロジェクト”

<http://www.kanja-setsumei.jp/>